

栃木グループホームそよ風

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0970300448		
法人名	株式会社メデカジャパン		
事業所名	栃木グループホームそよ風		
所在地	栃木県栃木市沼和田町10-10 (電話) 0282-20-5660		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年12月24日	評価確定日	平成22年2月9日

【情報提供票より】(平成21年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人 8 人	常勤7人(うち兼務1人), 非常勤1人, 常勤換算6.7人 常勤7人(うち兼務2人), 非常勤1人, 常勤換算5.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1~2階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・光熱水費—15,000円 ・共通管理費—2,000円 ・理美容代、おむつ代—実費
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合償却の有無	有(4年)
食材料費	朝食 350 円	昼食	450 円
	夕食 400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(平成21年12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低	79 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	横山内科医院、臼井歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームはJR栃木駅南口の閑静な住宅街にあり、芝生公園に隣接した日当たりの良い場所に立地している。ホームの周辺には、同法人の運営する高齢者専用賃貸住宅、デイサービスセンターやショートステイ等を実施しているケアセンターがある。ホームでは、入居者の人権を基本方針として、「楽しい、嬉しい、ほっとする」とのあたりまえに思える瞬間を大切に考えており、安全に、いきいきと生活出来るよう見守り、支え、常に入居者の立場に立ったサービスの提供に努めている。また、年2回、家族会を開催しており、納涼祭への参加やホテルにて新年会を実施する等、家族間の連携も深まっており、その他の行事等にも家族の参加率は高い他、運営推進会議にても複数の家族が参加をしており、活発な意見を出してもらっている。管理者は地域包括支援センター職員と密に連携を取り合い、情報の共有に努めている。協力医も確保されており、安心をモットーとした地域に開かれたホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果等は運営推進会議で報告しており、参加者から意見や助言を出してもらっている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	評価の意義やねらい等については、管理者及び職員間での意識の共有が図られており、今回の自己評価は職員に意見を出してもらい、最終的に管理者がまとめあげた。 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、入居者、入居者家族、自治会長、地域包括支援センター職員(市職員)、民生委員等の参加により、2ヶ月に1度開催している。会議では、ホームの運営状況や外部評価結果の課題等の報告を行い、協議のうえ参加者から意見や助言を出してもらっている。スプリングラー設置、ターミナルケアの受け入れ等について活発な意見をもらっている。また、地域行事の参加についても、会議をとおして具現化出来たり、参加者と入居者がお茶や食事を共にする等、開催の方法にも工夫を加えている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書にホーム及び市担当部署、国民健康保険団体連合会の苦情相談窓口を明記している。年2回、定期的な家族会の実施や運営推進会議にも複数の家族に参加してもらっている。家族会では納涼祭の参加や新年会をホテルにて開催し、会食を共にする等、家族同士の集まりの場で意見や要望等を出しやすいような工夫をしている。ホーム内には意見箱を設置しているが、意見等はよせられた事がない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民の一員として自治会に加入しており、地域で開催されるお祭りや消防訓練等の活動にも参加している。近隣の保育園児と年4回の交流を図ったり、お花の講師の指導により毎月お花の会を開催している他、ホームの利用案内やパンフレット等を地域住民へ来所の際に配布するなど、地域との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基本に、「うれしい、楽しい、ほっとする」の感情を持てる瞬間を大切に考え、自分の能力を活かしながら誇りをもって、一人ひとりのペースに合った生活リズムの支援を目的としたホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に理念について唱和をしている他、ミーティングやカンファレンス時にも、理念には必ず触れるようにしており、その都度、職員全体で話し合いながら、理念の実践に向けた具体的ケアについて意見統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として自治会に加入しており、地域で開催されるお祭りや消防訓練等の活動にも参加している。近隣の保育園児と年4回の交流を図ったり、お花の講師の指導により毎月お花の会を開催している他、ホームの利用案内やパンフレット等を地域住民へ来所の際に配布するなど、地域との交流に努めている。	○	ホームと地域が支え合うような双方向的な関係づくりも大切であり、閑静な住宅街に位置していることから気軽に立ち寄れる場となるよう、ホーム側から認知症キャラバンメイト等の講習を開催する等、地域に開かれた活動の場としてホームを提供していくことにも期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果等は運営推進会議で報告しており、参加者から意見や助言を出してもらっている。評価の意義やねらい等については、管理者及び職員間での意識の共有が図られており、今回の自己評価は職員に意見を出してもらい、最終的に管理者がまとめあげた。	○	管理者は評価結果から具体的な改善が図られるよう、話し合いの機会や意識の統一に努めていきたいと考えている事から、評価を形式的な作業に終わらせず、評価のねらいや活用方法を全職員が理解するよう努めながら、一連の過程を通じて質の確保及び質の向上に取り組んでいくことに期待したい。

栃木グループホームそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、入居者、入居者家族、自治会長、地域包括支援センター職員（市職員）、民生委員等の参加により、2ヶ月に1度開催している。会議では、ホームの運営状況や外部評価結果の課題等の報告を行い、協議のうえ参加者から意見や助言を出してもらっている。スプリンクラー設置、ターミナルケアの受け入れ等について活発な意見をもらっている。また、地域行事の参加についても、会議をとおして具現化出来たり、参加者と入居者がお茶や食事を共にする等、開催の方法にも工夫を加えている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員でもある市職員に運営推進会議に参加してもらっている他、管理者は市担当職員と運営上の相談や連絡を密にしており、ホームの現状や課題等の共有化に努め、市と連携しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、入居者毎に生活状況、健康状態、月次予定表等を作成して毎月、家族に送付している。金銭管理については出納帳にて管理をしており、来所時等に説明を行い確認のサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び市担当部署、国民健康保険団体連合会の苦情相談窓口を明記している。年2回、定期的な家族会の実施や運営推進会議にも複数の家族に参加してもらっている。家族会では納涼祭の参加や新年会をホテルで開催し、会食を共にする等、家族同士の集まりの場で意見や要望等を出しやすいような工夫をしている。ホーム内には意見箱を設置しているが、意見等はよせられた事がない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動や離職を最小限に抑えるように努めている。ホームには併設の事業所があるが事業所間での異動はほとんどなく、ユニット間での異動がある時には入居者へのダメージを最小に抑えるため、引き継ぎ期間を十分に取リスムーズに移行出来るよう配慮している。		

栃木グループホームそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として、定期勉強会、栃木支社階層別研修、継続者研修、本社スキルアップ研修等に参加している。外部研修においても参加の順番や勤務日の調整等に配慮しながら学びの機会に努めている。研修に参加した職員は伝達講習や資料の回覧等を行い知識の共有に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。年1回の事業所間の会議や管理者同士の相談等で情報の共有を図っているが、現状では地域の他事業所との交流の機会は少ない状況にある。	○	同業者との交流の機会を増やすことは、職場内で行き詰まっている業務上の悩みの解消や職員育成に役立つ実践的な交流や連携も図れることから、更に今後も事業者同士で協働しながら質の向上に向けた取り組みに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には見学も含め本人、家族とホームに数回来所してもらい、他の入居者や職員と一緒に飲み会を楽しんでもらっている。また、事業所併設の他のサービスを利用してもらいながら、短期利用等も行っている。入居当初も必要に応じて家族に来所してもらい、話し合いを通して心理的な不安がないかを見極め、本人が納得したうえで利用ができるよう、段階的な支援の工夫に配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と共に暮らす同士として、入居者のこだわり、苦しみ、不安、喜び、楽しみ等の思いを共感し、理解することで支え合う関係を築いている。入居者各々の得意分野で力を発揮してもらうことで、生活の技や生活文化の大切さを職員が教えられることもある。訪問調査時にも調理の配膳や食器類の後片づけ等を職員と一緒にしている入居者の姿が見られた。		

栃木グループホームそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりのアセスメント時に生活背景の聞き取りを行い、状態の把握に努めている。職員は入居者の言葉や言葉にしづらい思いを日々の行動や表情からくみ取り、入居者の視点に立って話しをするなど、本人本位の生活を支援出来るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は、入居時に本人及び家族の意向を踏まえ、ケアマネジャーや担当職員がカンファレンス等で話し合いを行う他、主治医等の意見も反映した介護計画を作成している。更新時等や入退院時においてもそれぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3、6ヵ月の期間を目安として、定期的な見直しの他に必要に応じて随時見直しをしている。個別介護記録、再アセスメントにより、入居者の状態の確認や情報の共有を図り、介護計画に沿った援助計画を随時作成している。また、家族にも変更点を報告している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算は行っていないが、共用型認知症対応型デイサービス・短期利用共同生活介護体制を整備しており、介護保険サービスや自主サービスに活かしており、必要に応じて多機能性を活かした支援に努めている。	○	医療連携体制加算の整備に向けて、看護師や訪問看護ステーション等との話し合いをしているとの事から、日々変化する入居者の状態や重度化に伴う終末期の対応における医療面での支援に努め、入居者が安心して暮らし続けていくために、事業所の多機能性を活かした取り組みに期待したい。

栃木グループホームそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の他、入居者のかかりつけ医での受診は家族の支援のもとで対応している。家族と受診時の情報伝達方法についての合意もなされている。家族での対応が困難な場合は職員が付き添うなどしており、適切な医療が受けられるよう配慮している他、往診をしてくれる医師も確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針については、運営推進会議等においても協議をしている。現在3名いる看護師との連携や支援により、重度化した場合等の健康管理体制はできているが、家族の選択や要望も兼ねて終末期に向けた方針の構築は課題となっている。	○	終末期に向けた勉強会等を開催したり、本人及び家族の意向や本人にとってどうあったら良いのか、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえ、主治医、職員、家族等との話し合いを繰り返し、その時々本人及び家族の意向を確認しながら対応方針の共有を図って行くことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法への理解や情報の漏洩防止に全職員が保持の徹底を図っている。入居者一人ひとりの違いを尊重し、何う姿勢で自己決定ができるよう、余裕のある言葉かけと、雰囲気づくりをしている。個人の記録等は事務室内にて保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは、一日の大まかな流れはあるが、入居者が主体となって一人ひとりがその日にしたい事の把握に努め、入居者のペースに沿って、見守りながら一緒に生活を送っている。身だしなみ等も本人の希望に沿った髪形や服装などが出来るよう、家族の協力のもとでおしゃれを楽しんでいる。		

栃木グループホームそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食のおかずと食材は併設するデイサービスセンターから届くが、朝、夕は職員がホームにて調理を行っている。食材等も不足分は入居者と一緒に行き物に出かけたりしている。昼食の盛り付け等は、入居者と職員と一緒に進んでいた。食後の後片づけはワゴンを使用する等、工夫がされており、入居者自らが後片づけをしていた。職員は検食も兼ねて1名は一緒に同じものを食べ、他職員は入居者の介助の支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の体調や身体状況を配慮しながら、一人ひとりの希望やタイミングを尊重したうえで、基本的に毎日入浴している。午後4時半ごろから夕食前の時間帯での入浴の支援をしている。浴槽は2浴槽ある。入浴の拒否傾向の強い入居者に対しては家族の支援のもとで対応している。	○	脱衣所兼洗濯場における、洗剤や薬品類の保管方法について検討していくことを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の潜在している記憶や出来る力を最大限に活かして、自分らしく暮らせるよう一人ひとりに合った役割や楽しみの支援に努めており、活け花や手芸、畑や花壇の手入れ、作品づくり等楽しみや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者のその日の体調や状態を考慮し、その時々に応じて一人ひとりが外出を楽しめるよう支援しており、ドライブや公共施設、外食、馴染みの場所等に出掛けている。また、少人数にて数回に分けた外出支援も行っている。	○	運営推進会議の参加者から、「入居者全員での外出は楽しみが増えるのでは」との意見が出されているが、入居者の重度化に伴い、歩行が困難になってきている現状もあることから、全体での外出については家族の意向も踏まえた、今後の外出支援の方策を検討していく事に期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に施錠はしておらず、職員の身守りにて鍵のない生活の支援をしている。居室の扉も鍵が掛けられるような作りになっているが、今迄一度も鍵を掛けたことはない。職員は常にフロアにて入居者一人ひとりの外出傾向の把握に努め、職員間でのポジションにより連携が図られている。		

栃木グループホームそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでの定期的な避難訓練の実施の他、年1回の地域での避難訓練にも参加している。地域の避難場所の確認や夜間帯の避難誘導については、併設事業所の職員も含めて全職員での周知徹底が図られている。備蓄等も確保されている。	○	災害はいつどの時間帯に起きるかわからない事から昼夜を通して様々な発生時間を想定し、地域住民の協力体制の構築や消防署や消防団、警察、地域住民との合同による訓練の実施に向けた取り組みに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士の協力により、栄養バランス、カロリーを計算し管理している。食事、水分の摂取量は個別に記録し、適切な摂取量が確保出来るように配慮している。個人の既往症や現病歴については、バイタルチェック・排泄チェックをし、状態に応じて個別に牛乳や繊維質等の食品を取り入れる等の配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が多くの時間を過ごす共有空間には、季節の花や季節感のあるものが飾り付けられており、違和感や威圧感を感じさせない自然な雰囲気が作られている。調度品や設備等は家庭的なものを用いており、昼食後には、ソファ等でゆったりと寛ぐ入居者の姿が見受けられた。テレビや職員の声のトーンにも配慮がされている他、不快な音、光等はなく、換気も適切に行われていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者は馴染みの物や思い出の物等を自由に持込んでおり、各々個性のある居室づくりがなされていた。ベッドやカーテンは好みの物が使用されている他、収納は備え付けの物が用意されており、おしゃれを楽しむかのように衣類等が整理されている入居者もいる。夜間時等、希望によってはポータブルトイレの設置が可能となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。